

東京交響楽団 首席オーボエ奏者

# 荒木奏美 さん

6月6日、国立シビックセンター音楽ホール(目立市)で東京交響楽団の演奏会が開催されました。その中で、ひとときわらわりのやまなひ拍手を送られたソリスト(独奏者)がいました。皆さんは、オーボエ奏者として世界の舞台でも活躍している東海村(舟石川)出身の荒木奏美さんをご存じでしょうか。国際コンクール等でも数多くの功績を残している荒木さんは、東海村文化・スポーツ特別賞を受賞するとともに、東海村の魅力を広げ、村内外に伝えるためのシティアプロモーション「東海村を愛する研究所 特命研究員(P.R大使)」を務めています。今回は、今後の活躍が期待される荒木奏美さんについてご紹介します。



## 音楽との出会い

荒木さんが音楽を始めたのは8歳のとき。当時、村立舟石川小学校の吹奏楽部に所属していた荒木さんは、9歳になり初めてオーボエに触れました。その後も大好きな音楽に囲まれて育った荒木さんは、県立日立第一高等学校卒業後、東京藝術大学へ進学。大学在学中に受けた東京交響楽団のオーディションで見事合格を手にし、現在、同楽団に2人しかいない首席オーボエ奏者を務めています。第11回国際オーボエコンクール・

軽井沢では、日本人としてもアジア勢としても初となる第1位(大賀賞・聴衆賞(軽井沢町長賞)を受賞するという快挙を成し遂げました。

**自分の音楽で感動してくれる人がいる**

中学2年生の荒木さんのエッセー「忘れない出来事」が当時の「広報とうかい」に掲載されています。その中で「演奏終了後に、見知らぬ人から「演奏を聴いて感動し、涙が出ました。ありがとう。これから人の心に響く演奏を聞

かせてください」と声を掛けていただきました。賞を頂くのも確かにうれしいことですが、自分の音楽で感動してくれる人がいる。これが音楽の本当の喜びで、何よりも大切なことだと実感しました。」とつぶつぶっていた荒木さん。

## ソリスト 荒木奏美

ステージの中央。観客を魅了する音色。観客から送られる盛大な拍手。そこには、あの時感じたことを忘れず、努力を積み重ねて夢をかなえた荒木さんの姿がありました。





①



②



③

①楽団員の皆さんと記念撮影 ②演奏会を鑑賞した山田村長が楽屋を訪れた様子 ③指揮者の飯森範親さんに東海村シティプロモーションの冊子「STORY」を見せてPRする荒木さん

## インタビュー(荒木奏美さんからのメッセージ)

いつも応援していただき、ありがとうございます。

私は現在東京で暮らしていますが、生まれ育った東海村を、皆さんとずっと大切にしていきたいです。

東海村出身の音楽家は多く、音楽業界でも東海村は有名です。私はクラシック音楽を聴きに行きづらいものにしたくありません。そのため、精一杯音楽を届けていきたいと思えます。皆さんも気

軽に演奏を聴きに来てくださいね。

**楽器の練習を頑張っている子どもたちへ**

練習はもちろん大事です。しかし、他のジャンルの音楽を聴いたり、外の景色を見て何かを感じたり…実は何気ない出来事がとても大切だったりします。後々、それらの経験が音楽につながってくることもあるからです。ぜひ、

今はたくさんの経験をしてください。そして、自分の気持ちに演奏の技術がついてくるような練習の仕方を見つけてください。きっと素敵な音楽家になれるですよ。私も機会があれば、皆さんと一緒に練習したり、演奏したりするなど、音楽を通して恩返しをしたいと思います。

年末には県内でのコンサートも予定されています。今後の荒木さんの活躍を期待し、東海村全体で応援しましょう。

### Profile

東京交響楽団首席オーボエ奏者

**荒木奏美** (1993年生まれ)

舟石川小学校、東海南中学校、県立日立第一高等学校、東京藝術大学首席卒業

### 【主な経歴】

- 第11回国際オーボエコンクール・軽井沢第1位(大賀賞)、軽井沢町長賞(聴衆賞)を受賞
- 第7回ジュニア管打楽器コンクールオーボエ部門第1位
- 第8回大阪国際音楽コンクール木管部門第3位(最高位)
- 21世紀アーティスト賞を受賞
- 第17回日本クラシック音楽コンクール木管楽器部門グランプリを受賞
- 第31回日本管打楽器コンクールオーボエ部門第2位
- 東京藝術大学学内において安宅賞、アカンザ音楽賞を受賞
- 平成27年度青山財団奨学生
- 第27回出光音楽賞を受賞
- 東海村文化・スポーツ特別賞を受賞
- 東海村を愛する研究所特命研究員(P R大使)に就任

